

堀川和男さん(まち2期) 公園を綺麗にしたい!



◆江戸川区のことが知りたかった
「手さくりしながらここまでできました」
樺太生まれで秋田育ち。堀川さんは早くに父親を亡くし、母親と第二人を支える一家の大黒柱でした。高校卒業後、上京し64歳で退職しました。
「何もしないではいられないタイプでね。仕事をしていてできなかったことをしたい。なにか参加できるものはないかと「広報えどがわ」を丹念に読んでいた」と言います。
「江戸川区を歩いていると手入れがされていない公園が気になって、綺麗にしたいなあと思ったのがはじまりです」それが江戸川グリーングリーンの誕生です。江戸川総合人生大学の仲間6人で立ち上げ、現在は12人で活動し今年で6年目になります。南小岩二丁目南児童遊園と江戸川区立

鹿本幼稚園で活動しています。幼稚園では草花を植えられるようにしたり、畑でじゃが芋、小松菜、さつま芋などの植え付けができるように準備をしています。
「今は親が知らない人とは口をきいてはいけませんという時代でしょ？でも孫みたいなちっちゃな子が「おじちゃん何やってんの～」って話しかけてくるんでね。それがかわいいのよ」堀川さんは本当にうれしそうです。



個性の強い人の集まりですが自由にやらせておくのが堀川流。「リーダーシップがないからですよ」堀川さんは謙遜していますが「堀だから何とか続いているんだよね」とメンバーは言っています。

◆声をかけることは心をつなぐこと
朗読会、おやじの会などにも活躍されている堀川さんは、「若い時は感じなかったけど、この年になると人から声をかけられ

ることが一番いいね。声をかける人がいる、挨拶できる人がいるってことはうれしいよねえ」と言います。
東北で育んだ粘り強さと、どこまでもやさしい語り口の堀川さんには人が人を引き寄せる魅力がある。「堀が何とかしてくれる」仲間の声が聞こえてきそうです。

【江戸川グリーングリーン】
平成18年12月江戸川総合人生大学の卒業テーマにより、6人で小岩6レンジャーの名前で立ち上げた。現在は「江戸川グリーングリーン」と改名し、12名で南小岩二丁目南児童遊園と江戸川区立鹿本幼稚園でそれぞれ月一回ボランティア活動をしています。平成18年公園ボランティアとして江戸川区環境促進事業団に登録されました。また、江戸川まちづくり学科の「えどがわの種」探し授業に「江戸川グリーングリーン」の活動を紹介しています。

取材：武藤 孝(介護7期) / 永田 光恵(介護7期)

川名信義さん(まち6期)
【紙芝居で交通ルールから葛西埋蔵話まで】
当コーナーに掲載を予定していた川名信義さんが、今年3月に逝去されました。ここにご冥福をお祈りするとともに、多くの社会活動をされていた氏の情熱を私たちも引き継ぎたいと思っております。
取材：齋藤 彰吾(まち7期) / 鳥羽山 晟(まち8期)

同窓会の窓



今期の同窓会は卒業生のみならず、在校生や一般の区民の方にも見える形で活動していくことでスタートいたしました。「江戸川総合人生大学ボランティアグループ連絡会」では40グループに参加をいただき、現在の活動状況の報告と今後の進め方について協議をいたしました。それぞれのグループがそれぞれ特徴をもった活動内容で、地域に貢献している事が大変頼もしく感じました。また、5月に実施された同窓会主催の美術講演会「江戸時代の画家伊藤若冲とアメリカ」は在校生や一般の方々も多数参加され、多くの皆さまから高い評価をいただきました。
大学祭も近づいてまいりました。同窓会としては卒業生メンバーの力を結集し、在校生の皆さんと素晴らしい大学祭になるよう準備を進めております。7期生の皆さんは在学中の2年間で学んだ成果を携え、卒業後は私たちと一緒に楽しく活動していく仲間になることを期待しています。

同窓会会長 国際4期 川瀬 隆弘

大学 TOPICS 公開講座のご案内

大学では、より多くの方々へ大学を知っていただく機会として、区内在住、在勤、在学の方を対象に公開講座を開催しています。大学の雰囲気を感じてぜひ入学を検討してみませんか!

- 7月12日(木) 午後2時~4時 「若者・中高年の居場所と支援」
講師：狩野 賢 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 キャリア・コンサルタント、若者きずな塾 塾長
- 8月7日(火) 午後2時~4時 「まちを元気にする市民活動!~聴いて、話して、交流しよう~」
講師：竹迫 和代 参画はぐくみ工房 代表、ファシリテーター

【会場】 篠崎文化プラザ3階講義室
【費用】 無料
【問い合わせ】 電話 03-3676-9075 江戸川総合人生大学事務局



編集後記

本格的な夏を迎えて、それぞれが節電対策の知恵を絞らなければならない状況下。皆さん元気にこの夏を乗り切りました。私たち2年次にとって、残すところは7月29日の大学祭と卒業式のみとなりました。名残惜しいようでもあり、また達成感を感じるようでもありといった心境でしょうか。
情報紙の編集委員を努めて約1年半、情報紙の編集のコツについて先輩委員に多くを教わったことで今があるようにも。残り少ない時間ですが先輩委員の教えを見習い、これまで以上に良い紙面づくりを目指してもらったための助言は惜しむことなく、また中心となる8期生らしさを大切にするを期待しながら、スムーズなバトンタッチをしていければと思っております。

編集長 井上 眞

編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

- 【7期生】 井上眞、齋藤彰吾(まち) 寺本孝行、矢島芳男(国) 小田口清美、鹿野恵子(子) 永田光恵、武藤孝(介)
- 【8期生】 伊藤記子、鳥羽山晟(まち) 寺田佳子、土井芳夫(国) 佐久間鐵雄(子) 福島克巳、八武崎美子(介)



発行日 / 2012年(平成24年)7月1日 発行 / 江戸川総合人生大学

〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19 篠崎文化プラザ

江戸川総合人生大学 人と地域をつなぐ情報紙



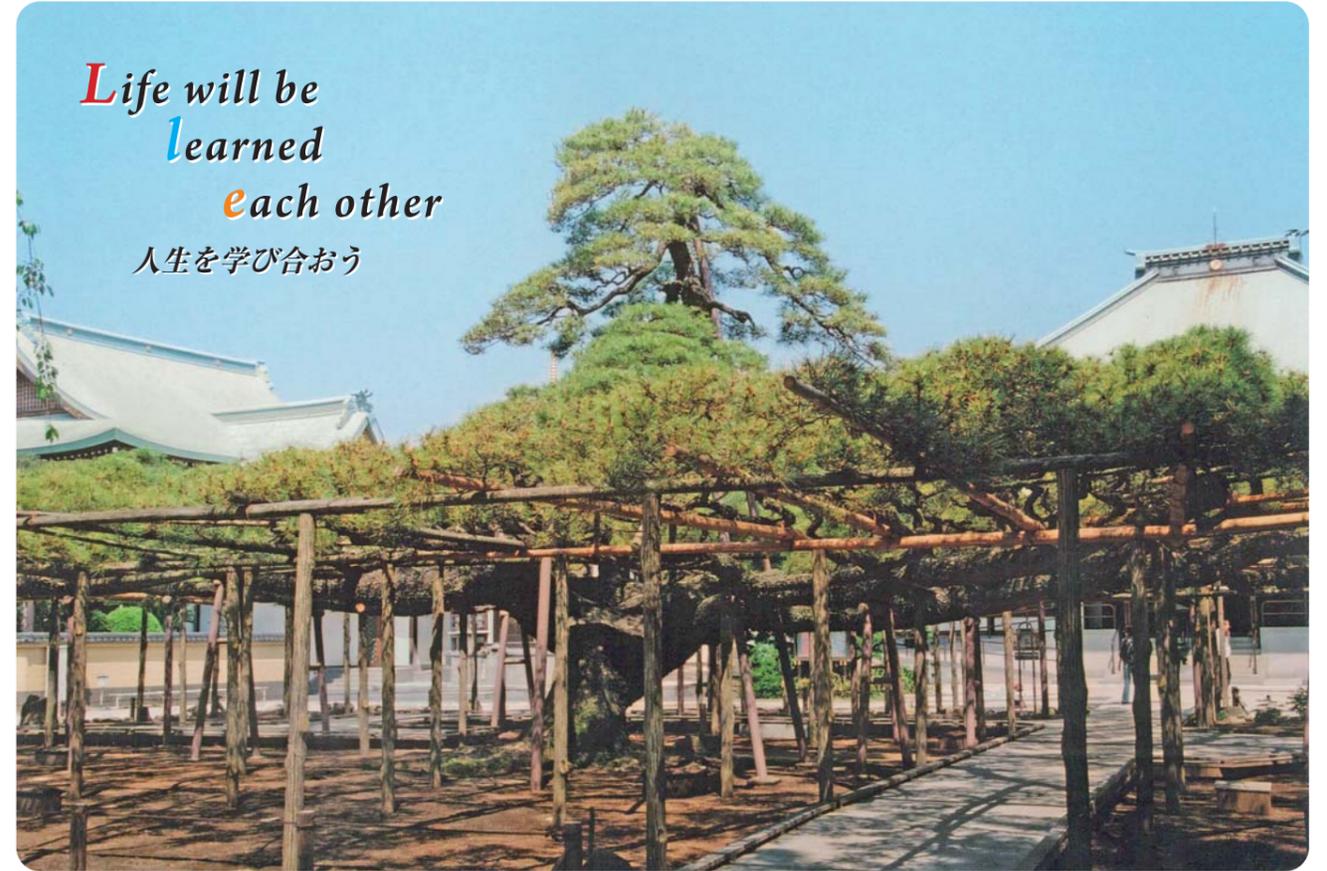
No.20

発行日 / 2012.7.1 創刊日 / 2007.4.10



http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/

【講師陣直撃インタビュー】講師の方々の魅力や意外性を発見することができました 大学で教える講師陣の思いや、お人柄が一目瞭然!



Life will be learned each other 人生を学び合おう

東小岩・善養寺内 影向(ようこう)の松 [写真:まち8期 鳥羽山]

江戸川総合人生大学 新入生募集!

今年10月から始まる第9期生を募集しています。 学ぶ楽しさを実感しませんか?

- 【募集期間】 平成24年7月1日(日)~平成24年8月20日(月)
- 【募集人数】 各学科 25名 計100名
- 【申込資格】 区内在住・在勤・在学の方。年齢制限はありません。
- 【修学期間】 2年間
- 【授業料】 3万円(1年間)※実地授業時の入館料、実費分をご負担いただく場合があります。

学科名	授業実施曜日、時間
江戸川まちづくり学科	金曜日 14:00~16:00
国際コミュニティ学科	水曜日 14:00~16:00
子ども・子育て応援学科	木曜日 10:00~12:00
介護・福祉学科	火曜日 14:00~16:00

※学校教育法等で定める正規の大学ではありません。

- 【申し込み】 区役所・各事務所・図書館・コミュニティ会館などで配布している「入学案内」に添付されている入学願書に必要事項を記入の上、江戸川総合人生大学事務局 〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 篠崎文化プラザへ持参または郵送してください。
- 【問合せ】 ☎03-3676-9075



人生 地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。 大学 (*学校教育法で定める正規の大学ではありません。)

授業で教えたこと、伝えたいこと、学生たちに思うこと、感じることを、期待することを語っていただくうちに…、魅力溢れる一面や、知られざる素顔がそこに。

K. Takaba



竹迫 和代 先生
[江戸川まちづくり学科]

学生の傍らとともに!

平成16年の開学当初から、まちづくり学科の講師として携わっています。当時育休が明けて職場復帰したばかりの頃でベストタイミングで素晴らしい大学と学生に出会えたと思っています。「まちづくり学科」では、教室の講義スタイルを極力抑え、地域へ出かけて学ぶというフィールドワークに力を入れています。「まち」を知らずしてまちづくりは語れません。同時にグループワークについても実践しながら学べるように工夫しています。他者の声を聴く、協働で取り組む、合意形成を図る。これらは「まちづくり人」としての大切な素養ですが、すぐには身につけません。しかし、何回も授業で繰り返すうちに自分なりのスタイルが磨かれていきます。学生もこの8年でずいぶん変化したと感じています。開学当初は、私たち講師も試行錯誤しながらでした。6・7・8期生はパソコンのできる方が増え、発表資料やプレゼンテーションのレベルも上がってきています。江戸川区としてもこの8年間で巣立った学生は、素晴らしい財産なのではないでしょうか。学生の皆さんは、高い意欲と豊富な経験をお持ちです。私はちょっと背中手に手を添える程度だと感じています。これからの「答え」は学生がすでに心の中にお持ちのような気がしてなりません。

「先生と呼ばれることになかなか慣れません」と笑顔いっぱい語られた。

取材: 矢島 芳男(国際7期) / 伊藤 記子(まち8期)

K. Shimojima



霜島 和子 先生
[国際コミュニティ学科]

様々な人たちとの出会いが魅力

「大学の設立当時、区民教授の募集を知って、その4学科全てに興味があり、どれも何かできそうに思ったんです。でも私は韓国人だから、韓国と日本の「架け橋」をするのが一番いいのではないかと考えました」。設立当初より国際コミュニティ学科で「韓国文化」について教えてこられた霜島先生は、24歳の時に外交の仕事で来日、その後日本人と結婚し大家族のもとで日本文化にも慣れ親しみ、時間に余裕も出てきた年齢になって自分の体験してきたことを伝えたいという思いが講師になった理由だという。韓国人と日本人、生活文化の違いはあっても、人間の本质は何も変わらないと、気さくな語り口のなかにも品格を感じさせるお人柄は、「世が世であれば、私は王朝のお姫様だったんですよ」という母国でのルーツからくるものか。

この大学で感動させられることは、在学生みんなが生き生きと元気に学んでいることで、自分自身の元気の源でもあるという。人生大学の存在は意義深く、多くの学生に夢や希望を与えるようにも思います。もしこの大学に提案をといわれれば、他学科間を超えるような他クラスとの交流が常にあれば、幅広く絆が深まるのではないかと。

「大学の最大のメリットは、様々な人生経験を持った人たちが会えることで、自分にとっても刺激であり魅力です。この大学が多くの区民に愛され、末永く続くことを願っています」と微笑みながらその瞳を輝かされた。

取材: 井上 眞(まち7期) / 鳥羽山 晟(まち8期)

S. Nishimura



西村 彩恵 先生
[子ども支援学科]

皆さんとともに学びたい

私は、2年次のイベントの企画・運営や課題レポート作成に関わらせて頂いています。クラスには、子育て中の方、お孫さんをお持ちの方、公立小学校などでの学校支援活動や地域活動を経験されている方など経験豊富な方々がいらっしゃいます。自分自身としましては、児童館職員や公立小中学校の学校支援ボランティア活動などの実体験や経験を伝えるだけでなく、それぞれお持ちのご経験を踏まえて、子どもとの関わりやその環境について一緒に考えていければと思っています。

授業の中でのイベントの企画・運営や課題レポート作成など、一人で考えるだけではなく、クラスの仲間や色々な方々とのつながりの中で共に考え合えることがとても大事だと考えています。

また、世代を超えて子どもたちや親御さんを支えたいという共通の思いや、仲間同士互いに励まし合っている姿を拝見すると、こうしたつながりが地域の中で大事だと改めて感じています。皆さんのそうした姿が自分自身の励みにもなっています。8期の方々とも次年度にお会いできることを楽しみにしています。

この大学は、幅広い世代の方が志を持って学びに来られており、とても素晴らしいことだと思っています。卒業後も大学で学んだことや仲間とのつながりを活かして、地域の中でより多くの方々との出会いをつないで頂けるのではないかと期待しています。

ところで西村先生はこれが先生かと思われくらい、若くて素敵なお方でした。

取材: 寺本 孝行(国際7期)

K. Yago



矢郷 恵子 先生
[介護・福祉学科]

暮らし手の目線、視点を学んで欲しい

人生大学の講師として7年になる矢郷先生は、日頃、三つの点に心がけて授業に臨んでおられるという。

一つ目は、大学の大きな目的は卒業後地域に貢献する人材を育てることです。それぞれの経験や専門を通して、どうしたら自分が地域で活躍できるか、その手法、コミュニケーションや地域デビューの作法を学んでもらうこと。

二つ目は、老いは誰にでもやって来ます。老いていくなかで一番大事なことは、自分の家に来て一緒に御飯を食べてくれる人、病気で寝ている時に訪問してくれる人、自分の気持ちを理解してくれる人、そのような仲間をつくることのように思います。それに向けて学生さんをサポートすることです。

三つ目は、全員そろって卒業してもらいたい。病気をされたり、家族を亡くされるなどのご不幸もありますが、大学や先生方が後押しをして何とか卒業してもらおう。そのことを常に願っています。

介護・福祉学科の授業は、介護福祉士やヘルパーの資格を取るのが目的ではありません。介護・福祉を通して地域のことを学び、課題を知り、また、老いを支えあう関係づくりを学ぶための学科です。

今まで講師をしてきて思うことは、毎年毎年クラスの雰囲気や違うことです。そこには人が集まることの面白さがあります。また、大学で大切なのは暮らし手の目線、視点です。そういうことを学んで欲しい。

取材: 齋藤 彰吾(まち7期) / 土井 芳夫(国際8期)

T. Yamamoto



山本 俊哉 先生
[みんなで作る安全・安心]

「お互い様」の精神で

近頃は首都直下型地震などメディアで取り上げられることが多いため、不安に感じることもあると思います。しかし、普段から身の回りに気を配り、できることから安全性を高め、被害を最小限にとどめる「減災」として考え直す良い機会だと思っています。

また、実際には犯罪件数は大幅に減っているにも関わらず、社会状況の変化により不安感が高まっています。特に子どもに対して「自己責任」などと言って責任を押し付けたりせず、地域が主体となって、子どもの安全を見守り、環境を改善するなど、自主的なまちづくりの取組みが欠かせません。

現在ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)という『お互い様』の精神で、信頼しあう関係づくりが求められていますが、それが結果的に「減災」や「子どもの安全」にもつながっていきます。この大学で学んだことを生かしながら、次のステップとして仲間と一緒に地域活動につながることを期待しています。

東日本大震災のことですが、皆さんにはぜひ被災地に足を運んでいただきたいと思います。そう簡単に行ける場所ではありませんが、映像だけではわからない被災地の実態をご覧ください。現地の仮設店舗での少しばかりの買い物と会話が元気づけます。阪神・淡路大震災についても少しずつ記憶が薄れてきていると思いますが、忘れて欲しくないというのが被災者の切なる想いです。

取材: 小田口 清美(子ども7期) / 寺田 佳子(国際8期)

K. Yamatoji



大和地 弘一 先生
[地球環境を考える身近な活動]

楽しくなければ…

大和地先生は、サラリーマン時代に江戸川区主催の「環境学習リーダー養成講座」を受講されたのをきっかけに、仲間と団体を設立し活動を始めました。退職後も、多くの人々に環境にやさしい生活を広げるための活動を展開しています。

江戸川区が進める『日本一のエコタウン』の実現を目指し、「もったいない」を合言葉に、一人ひとりが省エネ・省資源等に取り組む「もったいない運動えどがわ」の講座・講習会・イベント等の企画運営・講師など多方面で、ボランティアとして活躍されています。

自身の経験として、ボランティア活動は楽しくなければ長続きしないので、身近なことから環境問題を勉強して、できることから始めるのが良いと思います。また、活動する場とともに活動する仲間づくりがポイントです。そのためにも、自分自身が一步を踏み出して様々な活動を経験し、自分に合うものを見つけ、共に支え合い、学び合う仲間を見つけ連携・協働しながら続けることが大切です。

既に、えどがわエコセンターで、江戸川総合人生大学の修了生で環境問題に興味ある方が活躍されています。基礎勉強ができていて行動力もあり期待しています。自身の思いを実現したい方、一度タワーホール船堀の事務所(3F)に足を運んでみませんか! お待ちしています。

取材: 武藤 孝(介護7期) / 永田 光恵(介護7期) / 八武崎 美子(介護8期)

第7回 江戸川総合人生大学祭

学び ぶれあい 豊かな心 未来のため今できること

【日時】2012年7月29日(日)午前10時から午後4時
【場所】タワーホール船堀(1階展示ホール・2階瑞雲の間、他)入場無料
展示や体験コーナー、ステージで学びの成果を発表します。
大人から子どもまで楽しめる催しです。ご来場をお待ちしております!



えどがわエコセンターのイベントに参加しよう!



特定非営利活動法人えどがわエコセンターは、江戸川区という地域社会を舞台として区民、事業者、行政が連携・協働するという新たなパートナーシップのもと、多くの人々に環境にやさしい生活を広げるため全区的に設立する組織です。世代や立場を超えて多くの人々が、環境に貢献する活動を繰り広げ、「環境にやさしいまち江戸川区」の実現を目指します。

日程	時間	イベント名	会場	内容
1 8月11日(土) 【毎月第2土曜日】	10:30 ~ 12:00	太陽エネルギー利用講習会	タワーホール船堀3階 えどがわエコセンター多目的ルーム	太陽発電電、太陽熱温水器の仕組みや設置について解説します。
2 8月18日(土)	9:00 ~ 12:00頃まで	親子のための「昆虫ふれあいウッチング」と(大人が楽しむ)クモ合同観察会	葛西臨海公園	葛西臨海公園にて昆虫のベテラン講師を中心に、親子で昆虫採集自然界の連鎖などを学びます。同時にクモの観察会も行います。

※詳細は「広報えどがわ」で公開します。